

Q 児童・生徒の身を守る防犯ブザーが「ランドセルの脇に下げても、外れて落ちたりするので子どもたちが扱いにくいのでは」との保護者の声もありますが、今後の対策についてお聞かせください。

A 来年度以降は問題点を解消すべく、電池工業会に定められた防犯ブザー規定を参考にして改善に取り組みます。



防犯ブザー

本山 英子 議員

Q 事業計画について、3か年の事業計画と財源の内訳と費用対効果について、また今後の計画については、市民の生活環境の格差をなくす事業計画を望むが、いかがか。

A 総合計画策定前の実施計画は、新市建設計

画および旧4町村でそれぞれ策定されていた総合計画に基づく実施計画を踏まえ、総合的な政策推進と計画的かつ円滑な事務執行を目的として、平成18年から3か年の計画を策定しました。なお、18年度・19年度計画を策定する際、財源の配分については、旧4町村ごとの一般財源枠を基本に、各事業に対する優先度をつけ、調整しているところです。

これからは、大きな仕事をどんどん取り組むというよりは、やはり身近なところで改善していけるところを中心に考えていきたい。

●シルバー人材センターについて

Q シルバー人材センターの職員数、会員数、仕事の受注量について

A 職員数は臨時も含めて12名、会員数414名、受注量は18年度で3,882件です。

Q シルバー人材センター一本化への予定について

A 合併後、法人化とともに一本化が図られましたが、窓口については4か所に設定されており、窓口の一本化は現在予定しておりません。

●市町村立学校職員給与負担法について

Q 市町村立職員給与負担法について、市独自で学校職員を採用してはどうか。

A 学校現場へ適切に人的な支援をしていくとしても重要な課題と認識しておりますが、市の財政状況では難しいと言わざるを得ません。議員の貴重なご意見を生かして、子どもたちの健やかな成長につなげたいと思います。

●文化・芸術振興について

Q 文化芸術振興における市長の見解について

A ゆとりのないところに文化はできてこないということからも、文化についてもしっかりとした取り組みができるということとしては、しっかりと市として

の施策ができると、そんなバロメーターとして考えていきたい。

Q 山武市における文化人・芸術家の掌握はされているか。

A 掌握していませんが、民間レベルでやっていることができるように、今回作りました市民活動支援課のなかで考えていきたい。

小川 一馬 議員

●医療問題について

Q まず、医療問題について。成東病院はこの一年、坂本院長はじめ病院関係者のご努力で内科医師7名体制まで回復し、入院患者も増えてきているとお聞きいたしました。医療格差をなくしていただくには、病院の健全運営、充実した救急医療体制の確立が急務であり、そこで成東病院の経営問題の取り組みについて、夜間など救急車受け入れについて

A 成東病院の経営状況につきましては、依然

として厳しい状況です。18年度の決算見込みはおおよそ9億8,500万円の赤字です。昨年度の救急に関して、成東病院が1,693件の受け入れ、東金病院が635件、大網病院が994件ということで、成東病院の救急医療における重要性というものは大変なものがございます。まず、医師の確保を最優先に考えた成東病院の運営をこれからも図っていきたい。

●山武市建設計画について

Q 山武市発展のために、交通アクセス整備は必要不可欠であると思えます。これらの道路アクセス整備について

A 現在、新市建設計画を踏まえ、総合計画の策定作業中で検討いたしております。都市計画道路が22本ございまして、なかなか事業着手まで至っていないということですので、この道路行政に取り組むことによって、山武市の一体感というのが出てくると考えております。